

令和6年度 第3回 小櫃・上総地区公民館運営審議会 会議次第

日 時 令和6年12月10日(火)
午後2時から午後4時(終了予定)

場 所 亀山コミュニティセンター 大会議室

1 開 会

2 三橋委員長あいさつ

3 石井館長あいさつ

4 報 告

(1) 報告事項その1 各公民館事業の中間報告(9～11月)

(2) 報告事項その2 「20 歳のつどい」について

・令和7年1月実施の「20 歳のつどい」進捗状況

※令和8年1月実施の「20 歳のつどい」について

5 協 議

・令和5・6年度審議テーマ

「地域活性の拠点としての公民館運営・事業のあり方について」意見書(案)について

6 その他

7 閉 会

令和6年度 第3回小櫃・上総地区公民館運営審議会
資 料

小 櫃 公 民 館
上 総 公 民 館

令和6年度小櫃公民館事業中間報告（9～11月）

1 コミュニティ活性化事業

○小櫃公民館開館50周年記念文化祭(第50回小櫃地区文化祭)

・期日:10月26日(土)、10月27日(日)開催

・来場者数:両日で約 1104 人

1日目644人(期日前投票144人含む) / 2日目460人

・内容

※開館50周年記念式典を10月26日(土)10時から開催(1時間程度)

来賓・招待者34名

特別映像の上映、記念誌作文の朗読、小櫃公民館マスコットキャラクター(おびつどん、こふんくん)の発表および授賞式

①展示部門→書、菊花、絵画、生け花、手芸、子どもたちの作品、活動紹介の展示のほか、展示から派生のプチ体験や販売(屋外でのピラティスプチ体験、園児によるサツマイモ販売)

②発表部門→新規2団体参加(チェロアンサンブル、空手演武)、書道パフォーマンス(こども版とおとな版)

③販売部門→新規3団体(お好み焼き・焼きうどんの販売、駄菓子販売、ドリッポコーヒーの販売)が参加

④催し物部門→富弘美術館を囲む会「菜の花」による朗読会

⑤特別企画→特別企画展「小櫃公民館開館から50年のあゆみ」の資料展示と映像上映、2日目に「ORAGA(おらが)市」開催(自家製プリン・パウンドケーキ販売、クラフトバッグ販売、バザー、移動美容室)

2 青少年教育事業

○小櫃地区 20 歳のつどい実行委員会

*別紙資料 1 - 2 にて詳細を掲載

3 課題解決学習推進事業

(1) ほほえみ学級(高齢者学級)

・4回目 9月12日(木)「ものづくり体験 自然素材で染めてみよう!」20名

2回目(7/19)の内容(まちづくりふれあい講座:長板中形一松原伸生の伝統と展開)と関連付けて実施。当初は50周年冠事業として「東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部派遣事業」を公開講座の体で開催の予定であったが変更。

・5回目 10月8日(火)「地域を知る『おとなの小旅行』」17名

生涯学習バスにて移動。清和地域拠点複合施設“おらがわ”視察、君津市立中央図書館にて司書による「おとなの読み聞かせ」体験、「はちみつ工房」見学。

・6回目 11月5日(火)【公開講座】「ヒミツの映画会」13名

学級生以外の方1名参加。南子安小学校の大スクリーンを借用。

(2) 子育てサロン「おびつな」

- ・4回目 9月13日(金)「クラフトテープでつくるハロウィン用品」 13名
講師:「わくわく倶楽部」会員(小櫃公民館のサークル)
- ・5回目 10月16日(水)「おやこ de 散歩～久留里線に乗って、消防署を見学しに行こう～」 19名
小櫃駅から久留里線に乗り、久留里駅で下車(帰路は逆行程)。上総分署へ徒歩で移動し、施設や訓練の様子を見学。その後上総公民館に移動し昼食。
- ・6回目 11月8日(金)「年末大掃除に向けて！お片付けもうまくいく、モノとの向き合い方」 6名
講師:松本佳代さん(収納アドバイザー)

(3) おびつスマイルサロン “いーね”

- ・6回目 9月20日(金)「災害に備える『防災脳』を活性化」 24名
講師:高橋瑞恵さん(明治安田生命)
※回覧を見て初参加された方が1名(独居で家電話のみ)。災害への不安ありと
のことで、民生委員へお名前や連絡先などをつなげる。
- ・7回目 10月18日(金)「秋だ！全国歌めぐり」 27名
講師:「スマイルスマイル」さん(地域で慰問活動を行っているグループ)
- ・8回目 11月15日(金)「聞き間違いはなぜ起こる～難聴と認知症の関係とは～」 19名
講師:関太一郎さん(パナソニック補聴器/㈱フランスベッドから講師派遣)

(4) 介護家族のひろば

- ・おびつスマイルサロン“いーね”からの派生事業。9月12日(木)に企画会議を行い
日程と内容について調整。
- ・11月28日(木)開催予定
協力:東部地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、介護者ネットきみつ

(5) デジタル活用講座

- ①9月3日(火)【A コース】「知ったク！ スマホの便利な使い方 ～メッセージアプリ LINE を使おう～」 7名
講師:ドコモショップ君津店
- ②9月27日(金)【B コース】「知ったク！ スマホの便利な使い方～歩いて貯まるポイントアプリ～」 12名
講師:ドコモショップ君津店
- ③10月15日(火)【C コース】「スマホでできる！ヘルスケアパスポートであなたの健康管理」 ※まちづくりふれあい講座「スマホで健康管理」 8名
講師:健康づくり課、TIS 株式会社(アプリ開発会社)

④11月11日(月)【D コース】「スマホでできる！ インターネットの活用とオンライン診療」 11名

講師：ドコモショップ君津店

(6) 小櫃学「戦跡の地をめぐり、平和を考える」

・11月30日(土) 開催予定

座学「戦時下の小櫃～昭和19～20年を中心に～」

講師：栗原克榮さん(元高校教諭、木更津市史編纂委員)

現地見学→B29墜落地、忠霊塔、B29搭乗員埋葬地、日露戦争忠魂碑、萬福寺、呑龍搭乗員の慰霊石碑というコースを生涯学習バスと徒歩にて移動。

4 小櫃公民館50周年記念事業

・臨時(第9回)理事会9月25日(水)

8月いっぱいまで公募していた、小櫃公民館公式マスコットキャラクターおとなの部・こどもの部の最優秀作品(各1)・優秀賞(各2)を選出。

・第10回理事会10月10日(木)

・第9回全体会議10月17日(木) ← 本番前最後の全体会

※式典:「小櫃公民館開館50周年記念式典」 10月26日(土) 前日にリハーサル

※開館50周年特別企画 記念講演第一弾:

「世界的パティシエ・菅原智大さん 特別講演会」 11月2日(土) 150名

対談形式の講演会(対談相手は森弘子さん)と飴細工の実演。菅原さんには、4種類のケーキ(予備含め130個)をご用意いただいたほか、ケーキとは別に、テイクアウト用の焼き菓子80セットもご用意いただき、ロビーにて販売。焼き菓子販売では青葉高等学校の生徒(2名)がボランティアとして参加。ケーキは先着順の要・予約とし、コーヒーとのセットで販売(ただし持ち帰りは不可)。文化祭でカフェを出店した有志が、「カフェおびつ」を出店し、ケーキとのセットでドリップコーヒーを販売。このケーキセットを販売する際、上総小櫃中学校の生徒(6名)がボランティアとして参加した。また、この講演会のために1か月前から制作したという飴細工作品「時～春夏秋冬～」を輸送していただき、飴細工の実演前にご披露いただいた(現在も館内にて展示中)。

※開館50周年特別企画 記念講演第二弾:

「教育学博士篠田義明さん 特別講演会」 11月23日(祝土) 100名

生涯学習講演会として生涯学習文化課と共催。また講師の著書が蔵書となっていることから中央図書館とも連携し、当日は同館201会議室をサテライト会場とし、またオンラインでの中継も行った。

令和6年度上総公民館事業中間報告（9～11月）

1 コミュニティ活性化事業

（1）上総公民館だより

- ・ 9月19日（木）文化祭特集号の発行
第52回上総地区文化祭の案内

（2）上総地区文化祭

- ・ 10月19・20日（土・日） 第52回上総地区文化祭
テーマ「つながる ひろがる 上総の文化」
模擬店・舞台発表・体験・展示・子どもチャレンジコーナー等
来場者数 約1,300人（推計）

2 青少年教育事業

（1）君津ふるさとかるた大会上総地区予選

- ・ 10月19日（土）上総地区文化祭の中で実施
（参加者：12名）

（2）久留里・松丘・亀山地区20歳のつどいの取り組みについて

別紙資料にて掲載

3 課題解決学習推進事業

（1）高齢者学級（さわやか学級）

- ・ 9月13日（木）講座「健康な体づくり ～卓球に挑戦～」
講師：卓久留（上総公民館定期利用サークル）
（参加者：15名）
- ・ 10月8日（火）講座「人と心の豊かなふれあい ～パン作り教室～」
講師：岩崎純子氏（日々のパン 笑顔あふれるパン教室『cocoRoN』（ココロン））
（参加者：17名）
- ・ 11月6日（水）講座「健康な体づくり ～グランドゴルフ体験～」
講師：上総グランドゴルフ愛好会
（参加者：20名）

（2）上総子どもふれあい教室

- ・ 11月30日（土）講座「パラスポーツのボッチャを体験しよう！」を実施予定
講師：前田佳也氏（小糸レインボークラブ）
（参加予定者：16名）

(3) 地域住民交流教室

- ・ 10月30日(水)「あなたの街の相談パートナー 人権擁護委員をご存じですか？」
安藤吉克氏、鳥井みゆき氏(人権擁護委員)及び秋葉修氏(千葉地方法務局木更津市局総務課長)をお招きし、人権擁護委員の活動についてクイズやDVDを活用しながら分かりやすくお話をいただいた。
(参加者：8名)

(4) 家庭教育関連事業(わいわい広場)

- ・ 第1回：11月26日(火) 講座「ヨガで心と体を整えよう&みんなで話そう♪」
会場：亀山コミュニティセンター
講師：森 久美氏(ヨガインストラクター)
協力：保育協力者
(参加者：10名)

4 分館事業

(1) 松丘分館事業

○第19回松丘ふれあいまつり

11月9日(土)

模擬店・フリーマーケット・舞台発表・展示・ハロウィンパーティー・モルック大会・トイドローン体験等 来場者数約 約500人(推計)

○趣味教養講座「松丘健康講座」(全4回)

*第1回：9月18日(水)

テーマ：フレイル予防について

講師：高齢者支援課秋元総括保健師、安西管理栄養士

「健康」と「要介護状態」の狭間であるフレイルや認知症の症状・予防法を学ぶ。

(参加者20名)

*第2回：10月23日(水)

テーマ：口腔ケアについて

講師：健康づくり課榎本主任歯科衛生士

口腔機能と認知症の関係や口腔ケアの仕方等を学ぶ。

(参加者：19名)

*第3回：10月30日(水)

テーマ：子どもと一緒にスローエアロビック！

講師：岡部佐和子氏

かずさあけぼの保育園の園児と一緒にスローエアロビックを行う。

(参加者：31名)

*第4回：11月22日(金)

テーマ：認知症との向き合い方

講師：上総園 東部地域包括支援センター 室井 直子氏

自分が認知症の症状を自覚した時の対応や家族が認知症になった時の接し方を学ぶ。

(参加者：17名)

(2) 亀山分館事業

○第21回亀山ふるさとまつり

10月5日(土)

模擬店・舞台発表・展示・長板中形講座・竹かごづくり体験・真空管アンプでお昼の音楽・みんなで歌おう♪・スリッパ飛ばし等 来場者数 約400人(推計)

○趣味教養講座「健康教室」

*第1回：11月7日(木)

テーマ：認知症を知ろう&食事のワンポイント

講師：君津市高齢者支援課 保健師、管理栄養士

誰にもおこりうる「認知症」について、予防対策などを学ぶ。

(参加者：12名)

*第2回：11月19日(火)

テーマ：呼吸を整え心と体をリフレッシュ！

講師：森 久美氏(ヨガインストラクター)

ヨガで呼吸を整え、心と体の活性化を図る。

(参加者：17名)

5 その他

- ・11月12日(火) 君津青葉高等学校と上総ロータリークラブ、ガーデニングを楽しむ会、まちなみ塾と一緒に上総地域交流センターの花壇に植栽を行う「花いっぱい運動」を実施。(参加者：16名)

小櫃地区20歳のつどいの取り組みについて

令和6年11月27日現在

1 実行委員体制・活動状況について

(1)小櫃地区実行委員会の活動

現在、新成人4名(すべて女性)で実行委員会を組織し、9月から10月まで会議を3回開催。

初回の会議にて、前年の集いの様子を踏まえながら、実行委員各自の集いへの思いをワークシヨップ形式で共有。つどいの方向性として以下の点を確認した。

- ①参加者それぞれの変化や20歳の節目の気持ちをお互い発表する、②仲間と楽しく交流
- ・ 実行委員会企画として、一人一言自己紹介の時間を設け、現在の近況や感謝の気持ちや抱負などを自分の言葉で語る。自己紹介中は、昔の写真をスライドで流す。
- ・ 記念品は集合写真を送付する予定。

2 小櫃地区20歳のつどいについて

(1)会場配置

新成人・来賓・主催者・家族席含め120席を想定

- ・ 来賓者(市議会議員2名、自治会連絡協議会、小櫃振興会、小櫃の元気なこどもを育てる会、社会教育委員、公民館運営審議会委員4名、君津市消防団2名、青少年相談員、新成人恩師6名)計19名
- ・ 保護者:人数制限なし

(2)内容について

流れ:①開会の言葉

②国歌斉唱(ピアノ演奏は新成人)

③市長挨拶

④来賓祝辞

⑤来賓及び主催者紹介

⑥祝電披露

⑦新成人企画「私たちが新成人です！」(全員から一言ずつ)

⑧恩師からのメッセージ(小学校時代恩師2名、中学校時代恩師1名)

⑨実行委員長よりお礼の言葉

⑩閉会の言葉

*閉会后、集合写真撮影

久留里・松丘・亀山地区20歳のつどいの取り組みについて

令和6年11月27日現在

1 久留里地区20歳のつどい

(1)久留里地区実行委員会の活動

- ・20歳を迎える5名で実行委員会を組織した。10月26日に1回目の実行委員会を開催、11月29日に2回目、12月中に3回目の実行委員会を予定している。
- ・実行委員会の企画として、20歳になった抱負、来賓や恩師の方には20歳を迎える方々に向けたメッセージをまとめたメッセージ集の発行を予定。また、つどい当日には、20歳を迎える方が1人ずつ描く夢、思い、抱負を語る「20歳のメッセージ」企画を実施する。

(2)内容等

○会場配置

20歳を迎える人・来賓・主催者・家族席について、座席数は現在調整中

- ・来賓者（県議会議員1名、市議会議員1名、自治会連絡協議会会長1名、公民館運営審議会委員2名、青少年相談員1名、恩師複数名）

○主な内容

- ・開会の言葉 ・国歌・市民歌演奏 ・市長挨拶 ・来賓祝辞 ・来賓及び主催者紹介
- ・祝電披露 ・20歳の方の自己紹介、抱負 ・恩師からのお祝いの言葉
- ・閉会の言葉

2 松丘地区20歳のつどい

(1)松丘地区実行委員会の活動

- ・20歳を迎える2名で実行委員会を組織した。10月26日に1回目の実行委員会を開催、11月24日に2回目、12月中に3回目の実行委員会を予定している。
- ・実行委員会の企画として、20歳になった抱負、来賓や恩師の方には20歳を迎える方々に向けたメッセージをまとめたメッセージ集の発行、保護者へのプレゼント企画を予定。また、つどい当日には20歳を迎える方が1人ずつ描く夢、思い、抱負を語る「20歳のメッセージ」企画を実施する。

(2)主な内容

○会場配置

20歳を迎える人・来賓・主催者・家族席含め50席を想定

- ・来賓者（市議会議員2名、社会教育委員1名、自治会連絡協議会会長1名、松丘地区コミュニティ活動推進委員会会長1名、公民館運営審議会委員1名、青少年相談員1名、恩師複数名）

○主な内容

- ・開会の言葉 ・国歌・市民歌演奏 ・市長挨拶 ・来賓祝辞 ・来賓及び主催者紹介
- ・祝電披露 ・20歳の方の自己紹介、抱負 ・保護者へのプレゼント企画
- ・恩師からのお祝いの言葉 ・閉会の言葉

3 亀山地区20歳のつどい

(1)亀山地区実行委員会の活動

- ・ 20歳を迎える5名で実行委員会を組織した。10月27日に1回目の実行委員会を開催、12月7日に2回目の実行委員会を予定している。
- ・ 実行委員会の企画内容は、20歳になった抱負、来賓や恩師の方には20歳を迎える方々に向けたメッセージをまとめたメッセージ集の発行、保護者へのプレゼント企画を予定。また、つどい当日には20歳を迎える方が1人ずつ描く夢、思い、抱負を語る「20歳のメッセージ」企画を実施する。

(2)主な内容

○会場配置

20歳を迎える人・来賓・主催者・家族席含め50席を想定

- ・ 来賓者（市議会議員1名、自治会連絡協議会会長1名、公民館運営審議会委員1名、青少年相談員1名、恩師12名） 計16名

○主な内容

- ・開会の言葉 ・国歌・市民歌演奏 ・市長挨拶 ・来賓祝辞 ・来賓及び主催者紹介
- ・祝電披露 ・20歳の方の自己紹介と抱負 ・保護者へのプレゼント企画
- ・恩師からのお祝いの言葉 ・閉会の言葉

令和5・6年度審議テーマ

「地域活性の拠点としての公民館運営・事業のあり方について」

（意見書）※第3回小櫃・上総地区公民館運営審議会での提示案）

1 はじめに

近年の人口減少と高齢化の影響から、今後、自治体や地域の再編が進んでいくなか、政府からは「小さな拠点」※1と「地域運営組織」※2のキーワードが出されています。これを受け、君津市においても、令和4年度から実施している君津市総合計画に「拠点づくり」が掲げられ、小櫃・上総地区の方向性として「小櫃駅周辺の拠点機能の充実」「JR久留里線と国道410号バイパスの整備を生かした拠点機能の充実」などが列記されています。市制施行50年が経過するなかでも色濃く残る地域性と、災害時に備えた危機管理体制の強化等からも、地域の拠点形成への期待がこれまで以上に高まっています。

少子高齢化、グローバル化、ポストコロナ等の社会変化のなかで、今後、公民館等再整備やまちづくり協議会の設立が進められていくにあたり、公民館が「小さな拠点」形成のための中核的役割として、特に地域住民による課題解決と地域活性化に向けて、どのような運営や事業を展開していくかが問われています。

今期（令和5年度～6年度）の小櫃・上総地区公民館運営審議会では、小櫃・久留里・松丘・亀山それぞれの地域が抱える課題を捉え、住民による課題解決を目指すためにはどのような取り組みが必要か、また、地域が活性化していく拠点としての公民館とはどうあるべきかについて議論してきました。

以上を踏まえ、地域活性の拠点としての公民館運営・事業のあり方について、次のとおり意見具申いたします。

2 小櫃・上総地区の現状と先進事例

令和5年度から6年度にかけて、計7回にわたる会議と地区別協議等を行い、地域の現状把握と課題を共有しました。

小櫃公民館からは、小櫃公民館等再整備ワークショップでの資料をもとに、誰もが使いやすい、立ち寄りやすい「用がなくても立ち寄れる公民館」づくりの視点が挙げられました。また、既存の事業の学びのなかから要望に応じて新規事業が派生し、事業間の関連づけが生まれてきているとの現状報告もありま

した。

上総公民館からは、独自のアンケート調査（上総公民館のあり方アンケート調査）を実施した結果の報告を受けました。主催事業についてはニーズを踏まえながら、今後より一層の充実に取り組む必要があるとの考察のもと、高齢者からのニーズが高い健康学習、趣味、高齢者福祉に関する内容の精査に加えて、地域活性・まちづくりへの期待も高く、今後の調査研究課題であると報告がありました。

全国の先進事例では、宮城県白石市斎川公民館の取り組み「住民主体の地域づくり」※3と白石市の地域づくり施策について、佐々木さつき氏（白石市まちづくり推進課、前生涯学習課）に報告をいただきました。地域存続の危機感を共有した住民たちによる様々な地域づくりの取り組みは、本審議テーマに照らして、示唆に富む内容でした（※詳細は右側QRより参照）。



白石市斎川公民館
の取り組み

3 モデル事業の展開

令和5年度第4回公民館運営審議会において、両公民館からモデル事業について提案を受けました。その後、地区別協議を行い、ここでの意見を踏まえた上で、令和6年度にモデル事業の実施に至りました。

（1）小櫃公民館事業①「ふらっとホーム事業」

小櫃公民館の再整備計画にかかるアンケートや、ワークショップで多くの要望があった「用事がなくても憩い・くつろげる環境の整備」を受けて、「ちょボラの会」による小櫃公民館の「快善」計画とその展開。

- * ちょボラの会（ロビーに図書コーナーを設置、ふらっとカフェ設置、ORAGA ICHIの企画及びチャリティーバザーの実施 等）



ちょボラの会と審議委員の懇談会

（2）小櫃公民館事業②「いきいきシニアプロジェクト」

高齢化の進展や認知症介護の問題に対し、ほほえみ学級とおびつスマイルサロンいーね、介護家族のひろばの3つの事業の一体的な展開により、高齢期にあっても当事者やそのご家族が、いきいきと地域で過ごすための学びとつながりづくりを進める。

- * ほほえみ学級：アクティブシニア向けの通年学習

- ＊ スマイルサロン “いーね”：小櫃地区社会福祉協議会との共催による高齢者向けサロン、申し込み不要（運営委員は地区社協、生活支援コーディネーター、民生委員、日赤）

→ほほえみ学級とスマイルサロンの合同開催による交流（落語寄席）

- ＊ 介護家族のひろば：スマイルサロンから派生した認知症介護者同士のピア・カウンセリングの場（企画会議：生活支援コーディネーター、君津市東部地域包括支援センター）



ほほえみ学級とスマイルサロン合同開催

（３）上総公民館事業「みんなイキイキ！食の健康教室―高血圧撲滅編―」アンケート調査結果を踏まえ「健康学習」をテーマとして設定。「健康と食」に着目して、全世代の方を対象に、健康、食、調理関係の学習を行い、健康意識の向上、健康寿命の延伸、地域住民の交流、世代間交流、親子交流などの活性化を図る取り組み。

- ＊ 成人向け「高血圧改善で健康寿命延伸～孫や子と一緒に料理教室！～」

1回目は座学（高齢者支援課と連携）、2回目は調理実習（君津市食生活改善推進員と連携）



食の健康教室（座学編）

- ＊ 中高生向け「高血圧を未然に防ぐ食習慣を身に付けよう！」（君津青葉高等学校と連携）

4 地域活性の拠点としての公民館運営・事業について

モデル事業の評価結果及び審議結果を踏まえて、今後の「地域活性の拠点としての公民館運営・事業のあり方」について、以下のように意見いたします。

（１）公民館運営のあり方

①多様な年代が「つどう」場づくりと運営に「かかわる」仕掛けづくり

一つ目は、様々な年代が公民館に足を運ぶ場づくりが必要であるということです。これは、「小櫃地区公民館再整備に関するアンケート」及び「上総公民館のあり方に関するアンケート」の結果から明らかになったことで、公民館を普段から利用している層に比べて、ほとんど利用していない層（割合、年齢層）が多

いという現実面での課題です。

現在利用の多い高齢者にとっては、移動手段の問題は残されているものの、出かける機会をつくることで、孤立を防ぎ、認知症予防も期待できます。長い高齢期をいかに健康的に暮らしていくかにおいて、社会参加※4は重要です。「いきいきシニアプロジェクト」のように、体調面に応じて本人が参加の機会・参加スタイルを選ぶことができると共に、介護家族のケアも広げていくことで、高齢期を安心して地域で過ごすことができる体制をつくっていくことは、今後ますます重要になってきます。

一方、利用の少ない青年期から壮年期の利用に関しては、「食の健康教室」にもあるように、子どもや孫と一緒に参加する機会の創出によって、家族としての利用の期待が持てます。若い世代の利用を増やしていく難しさはあるものの、スマートフォンやSNSでは実感できない直接体験やイベント（公民館の文化祭）の企画など、その年代の生活実態を調べた上で、興味関心の高い事業を模索していくことが必要です。また、イベントや講座以外でも、放課後や休日のホール等の開放や児童室、ロビー等フリースペースの活用、授乳スペースなどの設置など、「行きたい」「また来たい」と思える雰囲気づくり・環境整備と宣伝活動によって、子どもや若い世代のときから公民館を利用する習慣をつくるような、長期的な展望にたつ仕掛けが必要です。

新たな仕掛けや環境整備を模索するにあたっては、学生・若者だけで意見交換をする場を設けたり、「ちょボラの会」のように、共につくりながら関わる楽しさ、形づくる楽しさを感じながら活動できる工夫を施すなど、従来の手法にとらわれずに取り組んでももらいたいです。

このような空間づくりやイベント等を利用者自身が企画し、準備や運営を通して得られた気づきは学びに繋がり、楽しさと達成感が得られます。公民館職員には、柔軟な視点を持つと共に、それらの活動を励まし支えていく役割を期待します。

なお、この住民自身の手で公民館を運営していく考え方は、決して新しいものではありません。戦後初期に寺中作雄（当時文部省社会教育課長）によって構想された公民館は、「公民館の運営を担当する者は全町村民である」とし、公民館委員会※5が提案されていました。もちろん、そこにあるような地区住民全員による運営は現在の実状と乖離があります。しかし、加齢と共にライフスタイルが変化するなかでも、いつでも多様に公民館に関わる・参加する機会がいくつも用意されている、開かれていることは必要です。

こういった活動の間口を広げていくと共に、活動の成果や活用方法をあらゆる方法でPRしていくことで、「公民館（分館含む）は誰が来てもいい」という認識を広げてもらいたいです。

②関係者が「つながる」仕掛けと広がり

二つ目は、課題やテーマに関する関係者を把握し、つなげ、広げていくことが重要であるということです。

「公民館は…一定区域内の住民のために、実際生活に即する…各種の事業を行い、…住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的」（社会教育法20条）としているように、地域の状況と実際生活に即した運営をしていくためにも、地域の関係者を把握し、いかにつながりをつくっていくかが重要になります。

少子高齢化、コミュニティの希薄化、子どもの貧困化、認知症介護、空き家問題、農業・商工業の後継者問題、デジタルデバイド、地球温暖化、防災・減災、地域医療、公共交通、特殊詐欺等々、社会全体が抱える問題や課題は山積しています。公民館単独では解決できない課題であっても、関係者同士が互いの情報を共有していくことで、「問題の本質は何か」「いま何に向けた学びの場が必要か」「どのようなアプローチが望ましいか」などが浮き彫りになっていきます。その結果、関係者が講師となる場合もあれば、参加者や運営協力者となる場合もあるでしょう。さらに新たな関係者とのつながりが生まれる可能性もあります。

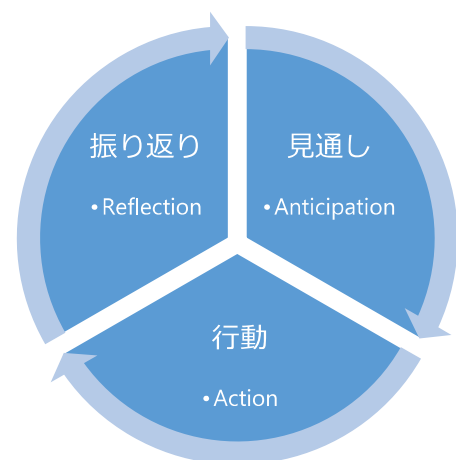
そのため、公民館はいかに関係者を広げていくかが重要であり、特に現在関わりの薄い「子ども・若者世代」に関わってもらう仕掛け※6について取り組んでもらいたいです。

③「たのしむ」なかで気づき、深まる「まなび」を生み出し、暮らしを拓く

三つ目は、公民館運営において、参加する・関わる者の「たのしき」に着目するということです。

今回、モデル事業の評価指標では、AARサイクル（見通し：Anticipation→行動：Action→振り返り：Reflection）※7を用いました。AARサイクルとは、OECDのEducation 2030プロジェクトで提唱されている「学習者が継続的に思考を改善したり、意図的かつ責任ある形で行動することができるような反復的なプロセス」です。PDCAサイクルとも似た概念ですが、主に組織や集団のマネジメントを行うサイクルがPDCAであるのに対して、AARサイクルは一人ひとりの学習サイクルです。

今後の公民館運営においては、従来から取り組んでいる団体・組織との連携も大事にしながら、関わる「個人」に注目し、学



習プロセスと事業運営のサイクルを重ね合わせていくことで、楽しみながらまずは挑戦し、修正と改善を繰り返していき、さらなる醍醐味・面白味を発見していく、このサイクルを回していくことが、これからの公民館運営の視点になるのではないのでしょうか。自由な参加意思を基本とする公民館での活動において、「たのしさ」は動機づけとして重要な要素となります。

一方、個々人の「たのしさ」の課題面に関していえば、宮城県白石市斎川公民館の事例「ころ柿づくり体験教室」のように、一過性のイベントによって多くの人が集い、確かに一時的な地域活力は生まれるものの、「住民が日常生活の中で抱えている不安や課題を解決することはできない」という問題点があります。そこには、「たのしさ」だけでない生活や地域課題に対する困難や悩みが横たわっています。これらの現実、社会の構造的な問題に起因していることも多く、それにより対立や分断を生じさせています。

その課題を解決するアプローチとして、対話による気づきと「まなび」が重要です。

政府が自治体を通じて進めている「小さな拠点」形成において、今後、「住民主体の地域づくり」（課題解決、地域の活性化）が重要なキーワードとなります。ただし、「住民」と一言でいっても職住分離の生活スタイルが主流となって久しい現代社会では、生活実態や生育背景は一人ひとり異なります。そのため対話を通して、共通する課題を探っていくことが、変化の激しい時代においてニーズをつかむ方法として望ましいのではないのでしょうか。このように住民それぞれの違いを受け止め、分断や対立、課題を乗り越える過程にこそ学びがあります。

（２）公民館事業のあり方

次に、「住民主体の地域づくり」に向けて、具体的な公民館事業のあり方について、AARサイクルに基づいて以下のように整理しました。

①見通し・計画（Anticipation）

事業の目的や課題を設定する際には、アンケート調査やワークショップ、利用者の声など、日頃から地域住民の生活実態を調べ、地域の特性やニーズを把握することが肝要です。

事業を企画する際には、公民館が関係する人・団体・機関についてアンテナを高くして情報をつかみ、打合せ会議や実行委員会、運営会議など名称や位置づけは様々ですが、関係者同士のつながりをつくりながら一緒に対話と検討を丁寧に重ねていきながら、それぞれの強みを活かした役割分担をしてください。時には、「介護家族のひろば」のように当事者にも企画検討の際に同席してもらい、必要な内容や配慮すべき事項を組み入れていくことも必要になります。

このようなつながりづくりそのものが、関係団体の機能を活性化し、関係構築

が図られることで地域活性の土壌となります。また、この公民館運営審議会も、公民館職員と様々な立場の審議委員が事業や運営等について意見を交わす場であると考えています。

対象者と開催日の設定は、密接に関係しています。高齢者の場合には夜間の参加は運転等の危険から難しい反面、働いている人にとっては、昼間よりも夜間の方が参加しやすいというケースもあります。また、あまりに参加条件が厳しい（例：連続参加が必須、親子連れ必須）と、せっかく良い内容であっても参加が難しくなってしまいます。対象者のライフスタイルに合った開催日時の設定や参加のハードルを下げていく方向での検討をお願いします。

周知方法については、まだまだ広報が行き届いている状況にはありません。従来の回覧だけでなく、時代や世代に応じた様々な方法を模索していくと共に、口コミや、関係者を通じた直接の情報伝達を進められるように工夫してください。

また、「ほほえみ学級とおびつスマイルサロンいーねの合同開催」のように、既存の取り組み同士で開催することで、新たな人脈が生まれ、周知と人の交流が誘起されますので、様々なコラボ企画なども良いかと思います。

②実施内容（Action）

内容については、設定した課題や事業目的に対して達成される内容になっているかが重要です。目的や対象者に応じた「たのしさ」と「まなび」のバランス、インプット（座学）とアウトプット（実習・意見交流・ワークショップ）のバランス、「まなび」の深まりや活動の広がり（フィールドワーク）といった展開など、様々なアプローチを用いながら課題にせまり、事業目的を達成していくような内容を期待します。学習者・参加者の反応（アンケートや意見）によっては、予定していた内容を修正し、より効果的な内容に変えていく柔軟性も必要ではないかと思います。

講師の選定では、取り上げるテーマや内容に基づく専門家や関係者が望ましいのはいくつまでもありません。参加者の人数規模や活動内容によっては、講師単独ではなく、複数体制で、メインの解説と学習補助など役割分担をしていくことで学習者の理解を深める効果があります。加えて、事前に打ち合わせを行うなかで、テーマ設定の意図や課題、学習者のニーズ等を公民館と共通理解を持つことで、学習者も講師も互いに学び合う「相互学習」の関係性を築いていくことが大切です。

事業実施の際の協力者としては、企画段階でつながりをもった関係者がそのまま協力者となるケースが多いと思います。企画の立案段階から関係者をつながりをもつことで共通認識が図られ、周知協力、実施協力など、様々な関わりへと発展していくことが期待できます。おびつスマイルサロンいーねや介護家族

のひろばでは、君津市東部地域包括支援センターと連携をとっていますが、このことは、参加者にとっても介護等についてその場で相談できるメリットがあります。

公民館職員は、学習テーマに対して地域の人・産業といかに関わってもらうかに注力していくことで、広がりをつくり、さらにそれを継続していくことを期待します。

③振り返り（Reflection）

事業を行うことは目的ではなく、課題解決や住民が交流を図る手段であり、その後どのようなものが生まれるかまで意識して行っていくことが大切です。

まずは、事業を実施したことで、当初設定した課題にどの程度せまれたか、参加者の事後アンケートや意見、講師・関係者からの意見をもとに、冷静かつ客観的な分析が必要になります。公民館運営審議会における事業報告等もその機会の一つと思われます。

次に、学習や活動によって、テーマの深掘りや新たな活動への展開につながったかの検証も重要です。例えば、介護家族のひろばでは、介護問題から男性の家事スキルの向上、老々介護問題、金銭的負担等の問題へとテーマが広がっていきました。新たな活動展開でいえば、趣味教養講座などからサークル発足への流れや、おびつスマイルサロンいーねから派生して介護家族のひろばが新規事業として開設されるなど、様々な例が挙げられます。

テーマや活動の継続性も重要です。今回、食の健康教室の実施について、事業の認知度を上げていくことや、健康づくりがいかにして地域活性につながっていくのかを地域住民の共通認識としていくには、一定期間、活動の継続が必要になります。

これらの振り返りのなかから、次への見通し・計画（Anticipation）へとつながっていき、活動の蓄積と新たな展開というサイクルを回していくことが、これからの公民館事業のあり方として求められます。

5 おわりに

公民館が、公民館運営の一端を「たのしみ」ながら関わっていく担い手を増やしていき、関係者と広く手を結び、多様な地域住民が繋がっていく仕掛けや学習環境づくりをしていくことによって、地域活性の拠点の一つとなっていきます。

今後、「住民主体の地域づくり」を展開していくためにも、公民館は地域のハード的・ソフト的拠点として、地域ごとに異なる課題（地域的課題、生活課題）に応じた学習や活動に積極的に取り組み、地域住民が学びの客体（受動的）から主

体（能動的）へ転換していく働きかけや仕掛けが重要となります。

住民一人ひとりが「かわり」、「たのしめる」ために公民館が果たす役割は今後さらに大きくなるものと考えています。

【注釈】

- ※ 1 「小さな拠点」とは、「小学校区など、複数の集落が散在する地域（集落生活圏）において、商店、診療所などの日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場所を集約・確保し、周辺集落とコミュニティバス等の交通ネットワークで結ぶことで、人々が集い、交流する機会が広がっていく、集落地域の再生を目指す取組」（内閣府 HP）
- ※ 2 「地域運営組織」とは、「地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織」（内閣府 HP）
- ※ 3 白石市斎川公民館は第 72 回（令和元年度）優良公民館表彰（文部科学省）で最優秀館を受賞。小中学校の廃校が相次ぎ高まった住民の地域存続への危機感の高まりから、ころ柿体験教室、きらり斎川笑アップ塾（住民主体の地域づくりに向けた学習会）、中学生以上全住民アンケート調査、若者会議、LINE の利用と高齢者向け LINE 講習会、中堅世代会議、行事・会議・組織の棚卸し、地域円卓会議、移送支援実験を実施。公民館講座では、さいかわ宝もの MAP づくりと斎川楽しみ隊が発足した。
- ※ 4 「静岡県高齢者コホート研究」（平成 24 年）により、運動、栄養、社会参加の 3 要素が健康長寿の要因であることが分かっている。3 要素なしに比べて 3 要素ありの人は死亡率 51% 減という結果。
- ※ 5 「公民館事業の運営者としては公民館管理者としての町村長、運営主体としての公民館委員会、事業執行者としての公民館長及び公民館職員が之に当たるものであり、要するに町村民の全部が此の運営に参加するものと謂ってもよい。」（「六 公民館は誰が運営するか」『公民館の建設』昭和 21 年）
- ※ 6 宮城県白石市斎川公民館では、若者会議【中学生から 29 歳以下】の対話型ワークショップの開催を開催しているが、ここには年長者の立ち入りは禁止となっている。ここでも出された意見として、広報や回覧よりも LINE を利用している若者が圧倒的に多いことから、行事の案内を紙面だけでなく LINE も増やした。また、「手伝いは具体的に言ってほしい」との意見を踏まえグループ LINE で若者とつながり行事ごとの参加協力要請を行っている。さらに、高齢者を対象とした LINE 講習会では若者が先生役となって関わりをもつ活動が展開されている。
- ※ 7 「見通し・行動・振り返り（AAR）サイクルは学習者が継続的に自らの思考を改善し、集団のウェルビーイングに向かって意図的に、また責任を持って行動するための反復的な学習プロセスです（concept note on the Anticipation-Action-Reflection cycle を参照）。計画を立てること、経験、そして振り返りを繰り返すことで学習者は理解を深め、視野を広げます。AAR サイクルはより良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシーを育成する触媒です：より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシーは、学習者が状況に適応し、振り返り、必要な行動を起こし、継続して自分の考えを改善していく力に依拠しています。」（「OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」）